

# 船舶事故調査報告書

令和2年1月22日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	転覆
発生日時	令和元年9月1日 02時45分ごろ
発生場所	愛媛県松山市由利島南方沖 由利島灯台から真方位293° 1,260m付近 (概位 北緯33° 51.0′ 東経132° 31.2′)
事故の概要	プレジャーボート三晃丸は、錨泊中、転覆した。
事故調査の経過	令和元年9月5日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート 三晃丸 6.6トン
船舶番号、船舶所有者等	281-17191 広島、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、一級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	機関等に濡損（全損）
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 東、風力 2、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の中央期
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、知人1人を乗せ、左舷船首及び左舷船尾からそれぞれ船首方及び船尾方に錨を投入し、主機を停止して船首を北に向けた状態で錨泊していた。</p> <p>船長は、本船の船尾部が沈降するとともに、左舷甲板上に海水が流入する状況を認めたので、118番通報した。</p> <p>本船は、船長が、主機を始動して排水ポンプを起動しようと機関室を見たところ、機関室底部から浸水しており、主機を始動できず、その後、左舷側への傾斜が増して転覆した。</p> <p>本船の乗船者は、ベスト型膨脹式救命胴衣を着用しており、本船の船底上に這い上がっていたところ、来援した巡視船艇に救助された。</p> <p>本船は、進水から約42年が経過したFRP製の船体で、平成28年11月8日に上架して検査を受けており、これまで、船底外板に破口、亀裂等の損傷や機関室に浸水を生じたことがなかった。</p> <p>船長は、浸水した理由について心当たりがなかった。</p>
分析	<p>本船は、錨泊中、船底から浸水したことから、船尾部が沈降して左舷甲板上に海水が流入し、転覆したものと考えられる。</p> <p>本船は、船底外板に亀裂等が生じて浸水した可能性があると考えられるが、船底外板に亀裂等が生じた状況を明らかにすることはできなかった。</p>
原因	本事故は、夜間、本船が、錨泊中、船底から浸水したため、船尾部が沈降して左舷甲板上に海水が流入し、転覆したものと考えられる。

<p><b>再発防止策</b></p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 船歴が古いFRP製の小型船舶は、船底外板の経年劣化を考慮して船体の点検を入念に行うこと。</li> </ul>
---------------------	--